

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第38週 (9/17-9/23) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	38週	37週	36週	35週
小児科	15	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	23	26	26	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	9/17-9/23	9/10-9/16	9/3-9/9	8/27-9/2	9/10-9/16
			38週	37週	36週	35週	37週
小児科	RSウイルス感染症		5	13	12	6	200
	咽頭結膜熱		4	7	3	9	57
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		22	34	34	30	237
	感染性胃腸炎		37	79	71	94	420
	水痘		0	0	0	1	17
	手足口病		15	26	23	32	155
	伝染性紅斑	○	5	4	3	2	59
	突発性発しん		6	4	12	12	52
	ヘルパンギーナ		15	21	16	21	108
	流行性耳下腺炎		1	1	1	1	14
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		3	4	2	0	22
			0.13	0.15	0.08	0.00	0.10
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	1	0	0
	流行性角結膜炎	○	5	3	11	4	32
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	1	0	0	4
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(25件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定	百日咳	男性	40歳代	抗体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	60歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	女性	60歳代	病原体の分離・同定	百日咳	女性	10歳代	抗体等の検出
				百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	女性	50歳代	病原体の分離・同定	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出	百日咳	女性	30歳代	臨床診断
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	百日咳	女性	40歳代	臨床診断
百日咳	男性	10歳未満	臨床診断	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	抗体等の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	20歳代	抗体の検出	-	-	-	-

・第38週は、結核2件(128)、腸管出血性大腸菌感染症1件(19)、レジオネラ症1件(10)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(7)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(20)、百日咳15件(170)、風しん3件(52)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第38週のコメント

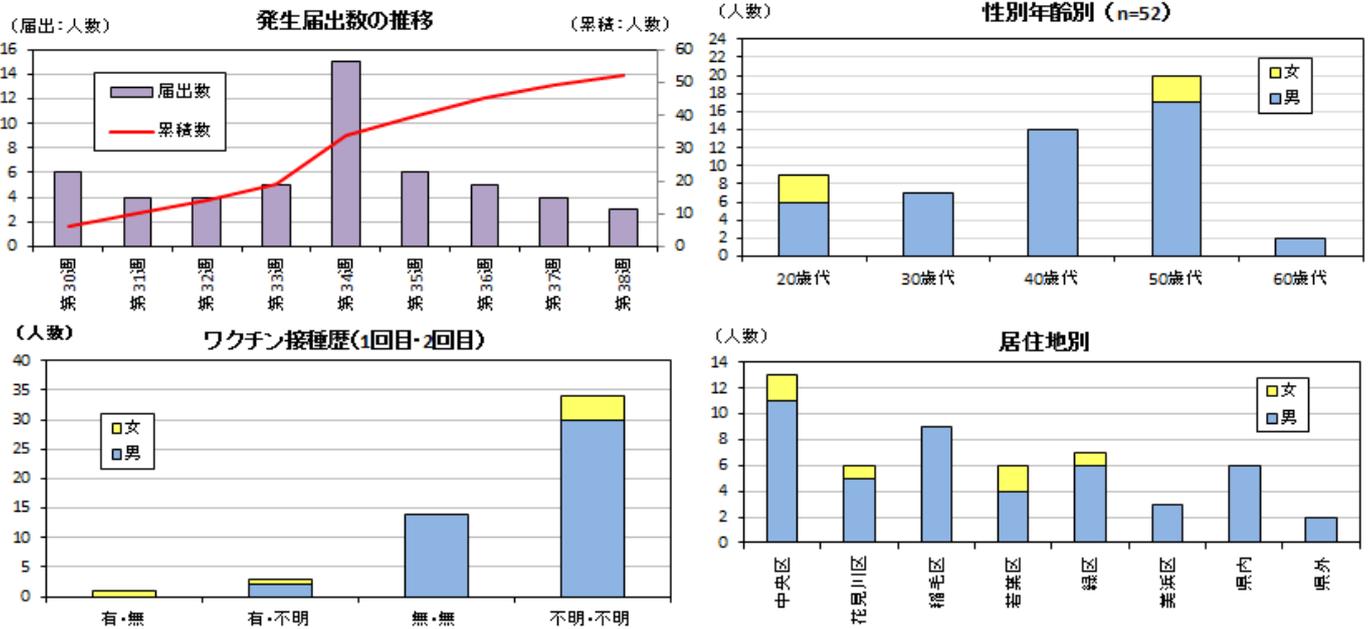
<伝染性紅斑>前週から増加し0.33となった。過去10年の同時期と比べると多め。

<流行性角結膜炎>前週から増加し1.00となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

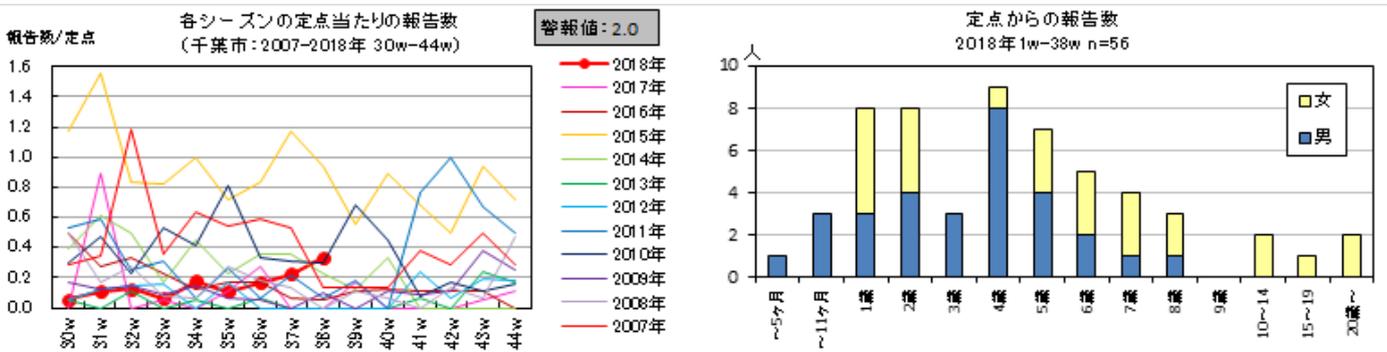
<風しん>

全国レベルの第37週の累積報告数は642件で、昨年の同時期と比べるとおよそ10倍となっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県の前で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市では第30週から報告が出始め、第38週は3件の発生届があり、2018年の累計は52件となっています。性別では男性が88.5% (46名)、女性が11.5% (6名)で、いずれも成人で年齢階級別では50歳代(38.5%:20名)、40歳代(26.9%:14名)、20歳代(17.3%:9名)の順で多く、40歳代~50歳代が中心となっています。居住地別は、中央区(25.0%:13名)、稲毛区(17.3%:9名)、緑区(13.5%:7名)の順で多くなっています。ワクチン接種歴は1回目2回目共に無し又は不明の事例が9割を超えています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第37週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、神奈川県、東京都の前で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第36週から連続して増加しており、第38週は0.33となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は若葉区(1.00/定点)で最多で、同区の2歳で発生報告がありました。2018年第1週から第36週の累積報告数は56件で、性別では男性が56.5%(30名)、女性が43.5%(26名)で、年齢階級別では4歳(16.1%:9名)、1歳及び2歳(共に14.3%:8名)の順で多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルの第37週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では高知県、沖縄県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の第38週は前週から増加し1.00となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は中央区及び美浜区(2.0/定点)で多く、中央区で60歳代から70歳代、美浜区で20歳代から30歳代で発生報告がありました。2018年第1週から第38週の累積報告数は112件で、性別では男女共に50.0%(56名)で、年齢階級別では30歳代(17.9%:20名)、40歳代(17.0%:19名)、20歳代(9.8%:11名)の順で多くなっています。

